1.　評価結果概要表

［認知症対応型共同生活介護用］

作成日　平成１９年１１月１９日

【評価実施概要】

事業所番号	０７７０３０２２５５
法人名	株式会社　エコ
事業所名	グループホーム　かんりん
所在地	〒963-8051　福島県郡山市富久山町八山田字尾池南１－１ （電　話）024-935-8100

評価機関名	ＮＰＯ法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043　福島県福島市中町4-20　みんゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年10月26日	評価確定日	平成19年12月6日

【情報提供票より】（平成１９年８月１日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成　１７年　１月　１日	
ユニット数	２ ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	16 人	常勤16人，　非常勤　0人，　常勤換算12.2人

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	２ 階建ての　１～2　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	（4～10月）9,000 （11～3月）12,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　19.950　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200　円			

（４）利用者の概要

利用者人数		18 名	男性　8 名	女性	10 名
要介護１		6 名	要介護２		5 名
要介護３		5 名	要介護４		2 名
要介護５		0 名	要支援２		0 名
年齢	平均	78.3 歳	最低	56 歳	最高　90 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	やぎぬまクリニック、しろくま歯科委員

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中心市街地からやや離れ、住宅地として開発が進められている一角に建てられた二階建て２ユニットのホームである。所在地が官林地域と呼ばれていることから、心静かに尊厳を保ち凛として生きるとし、「閑凛」と利用者が命名した漢字の書が壁に貼られてあった。道路開発が未整備で隣接住宅とは距離的にも離れているため、地域密着型のホームが孤立することがないよう努めている。特に、地域の秋祭りを利用し「こどもみこし」にホームに立ち寄ってもらい、その際芋煮会の行事をPRしたところ、子供たちを中心に家族も大勢集まり利用者との交流が深まりホームの理解がなされたとのこと。今後も運営推進会議等を活用し一層の地域交流を期待したい。自己評価や外部評価の意義についても管理者はじめ職員も理解しており、昨年、要改善事項となった事故報告書の改善内容や対応については、明確に記載するなど様式を含めた検討を行ない事故等の未然防止に役立てている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	昨年の外部評価において改善を求められた事故報告書の記載内容については、早速検討委員会を開催して適確に処理しており、その後の扱いについても職員全体で十分に理解しなお一層の改善に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は全員で行ない、その結果を管理者が総括的に評価し職員に周知している。法人責任者も内容を把握し改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	運営推進会議は、平成１８年９月より２ヶ月に１回、月半ばの土曜日に定期的に開催している。地域包括支援センター代表、町内会長、老人クラブ会長、地区の民生委員、利用者家族の委員となっており、ホームの管理者の他に法人本部の責任者も会議に参加し意見・情報交換が行なわれ実質的な会議がなされている。今後は、外部評価の結果についての公開や改善についての意見交換や、行政との協働関係を図るため運営推進会議を活用するなどして、一層、地域との連携を基に開かれたグループホームとして発展されるよう期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	毎月１回、定期的にコメントを添えた家族へのお便りを送付し、併せて金銭出納簿のコピーを添付したり、受診記録により、疾病の状況を知らせるなどしている。家族の意見、苦情等についても「介護に対するご意見・ご要望記入シート」により行政に直接意見等をFAXするように記入シートが置いてある。運営推進会議では、家族の代表より要望や意見等が出されるよう発言の場を設定している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入しているが近隣住宅が離れているため、地域のお祭り等の行事を積極的に活用し、ホーム行事のチラシを配布するなどして地域の人たちの理解を得ながら交流を図るよう努めている。ホーム内の畑で採れた野菜を材料にホームの駐車場を利用し芋煮会を行なったところ、大盛況であったとのこと。今後は、地域のボランティア会の連携により、外出時の付き添いボランティアの活用も検討している。

２．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員総意の下に、理念のトップに「住みなれた環境の中」という表現を用いて、地域密着型の特徴を生かした理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を記載した色紙が玄関やリビングの壁に掲示してあり、職員は常に目にすることができ、また外来者の理解も得やすい状態になっている。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立当初は、地域の人たちから声を掛けてもらうタイミングがなかなか取れなかったが、ホームでの芋煮会に先立ち、秋祭りの「こどもみこし」にチラシを配ったことで、近隣の住民から５０名を超える参加があり、次第に地域密着型の理解が得られてきている。今後もより一層の交流が期待できる。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で評価の意義を理解し自己評価も全員参加で行っており、昨年の改善事項についても速やかに対処している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を設置するにあたっては要綱を作成し、行政・町会・民生委員などへ呼びかけた。会議の議事録はポイントを押さえた簡潔な記載になっているが、それぞれの委員が毎回忌憚のない意見を積極的に述べている。また、利用者自身が自分の生き方について前向きに発言している。家族会の結成は準備中とのことである。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、金銭出納帳のコピー、領収書などを送付するが、その折に利用者個人ごとの日常生活、受診状況、健康状態などを記載して定期報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、職員に対して気軽に意見や要望を言える雰囲気をつくり、運営推進会議の席上でも自由な意見交換が行われるよう心がけている。また、「介護に対するご意見・ご要望記入シート」が活用されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内でのホーム新設などに伴う職員の異動が大部分であり、利用者との馴染みの関係を維持できるよう配慮している。管理者も日頃より、職員と話し合ったり相談を受けるなどして離職に至らないよう努めている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修に重きを置き、採用から２ヶ月以内には必ず受講させ、仕事に対する動機づけや満足感の醸成に努めている。また、中堅職員に対しては月に２回のスキルアップ研修を行い順次受講させている。日常的には働きながらの研修によることが多いが、介護についての専門誌などを定期購読できるような環境整備を勧めたい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への加入はしていないが、法人内の事業所との情報交換は積極的に行われている。法人外のグループホームの様子なども参考になるので、利用者と一緒に訪れてみることを勧めたい。		
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験豊かな入居者に教えてもらうことは多く、若い職員は特に尊敬の念を抱いている様子である。その一例として、ホームの名称「かんりん」については「官林」があった土地からつけた名称であるが、書を能くする利用者が「閑凛」という文字を考え、自ら記した紙が掲示してある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向の把握については日常生活の言動から読み取る努力をしている。また、「暮らしの情報」を活用し、習慣や好み、過去の生活歴と現在の状況との関連性を把握するなどして、利用者本位の暮らし方を検討している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護担当者による毎月のケース検討会議とスタッフ会議を行い、家族等の意見を取り入れながら、利用者にとって適切な計画となるよう援助方針を具体的に記載するよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月１回のケース検討会議の際に、利用者の意向や家族の意見を取り入れ３ヶ月ごとの見直しを行い、状態変化があった場合にはその都度見直しが行なわれている。また、ケース記録の内容には、ケアプランの援助内容に即したケアであることが示され、プランに即したケアとなっている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や職員の同行により、かかりつけ医等の受診が行なわれている。また、家族や職員が受診内容等を報告し合い、適切な医療受診が行なわれるよう情報を共有し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「終末期の看取り等について」を作成し、入居時に利用者及び家族に対し説明し事前の確認書をとっている。職員間でも家族の意向を把握し尊重できるようグループホームにおける看取り等についての理解を深めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者本位のケアに努めており、プライドを尊重し言葉かけにも十分配慮し、「個人情報使用に関わる同意書」により利用者等の同意を得ている。職員の守秘義務も誓約書の提出を求めるなど徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状況に沿ってそれぞれのペースで自由に過ごしており、利用者の意欲を引き出せるよう、できるだけ希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のペースで食事の準備や後片付けも行なわれており、利用者は馴染みの食器を使用し、職員も一緒に食卓を囲みながら楽しんで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝、昼の一番風呂を希望する利用者もおり、好きな時間に入浴できるよう配慮し、お湯の温度も好みに合わせ支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者の得意とする編み物、書道、植栽等それぞれに役割を見つけ、お願いしたりしながら楽しみながら過ごせるよう支援している。また、職員は必ず感謝の意を言葉で伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者の希望を取り入れ、買い物や散歩等の外出をしている。また法人のバスを利用し、遠距離ドライブにも出かけている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。センサーにより状況が確認できるようになっているが、センサーに頼らず利用者のその日の状況を察知しながら、さりげなく見守り行動を共にしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者を中心に年２回定期的に避難訓練を行なっている。また、運営推進会議を通じて防災訓練に地域の人たちの参加・協力が得られるよう呼びかけている。今後は備蓄について法人全体で整備されることが望まれる。	○	災害等に備えた準備が必要である。例えば、食料や飲料水、暖をとるための石油ストーブ等を法人として検討されたい。また、２階の非常階段の手すりが片側だけなので、両側に設置されることが望まれる。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活チェック表により食事や水分の摂取量を記録し、職員全員でそれぞれの摂取量を把握している。法人の栄養士のメニューを参考にし栄養バランスに留意し、利用者の状態に応じ、とろみをつけるなど工夫して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いリビングがあり、利用者はそれぞれに好みの場所を選んでゆったりとすごしている。衛生、採光、音量などにも工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のセンスや生活履歴を十分に活かした家具調度品が置かれていて快適に過ごしている。		

※ ▒ は、重点項目。

３ 評価結果に対する事業所の意見

事 業 所 名	グループホーム かんりん
記入担当者名	村上 敦子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。